



**開催趣旨**

市野川は滑川町羽尾地区で大きく蛇行を繰り返して流れ、豊かな自然が残されています。治水対策として直線化工事を進めようとする中、市民団体側は計画の見直しを要請。平成18年8月から市民団体、専門家、県・コンサルタント、滑川町により計画見直しの協議を繰り返し、当面の工事区間の工事内容を改善。平成19年夏、工事が着工されました。しかしこの間、川は皆のものでもあるにもかかわらず、時間的制約から地元一般住民の参加する機会を得ることができませんでした。そこで、この度、広く住民に呼びかけシンポジウムを開催し、これまでの経過説明、多自然川づくり学習会と市野川の将来像について、話し合いました。



暮らしの中を流れる川の再生に向け、河畔林の中を原始河川の様相を呈して流れている市野川(羽尾地区)のこれからの川づくりについて、皆で考えます。

**日時** / 平成20年 1月12日(土) 13時~16時  
**会場** / 滑川町エコミュージアムセンター会議室(滑川町役場敷地内)  
 〒355-0803 埼玉県比企郡滑川町福田763-4

**プログラム**

- 市野川の原風景(住民より)
- 市野川河川整備計画(埼玉県より)
- 市野川多自然川づくり学習会(専門家より)
- 公開討論会(全員参加)

◆車の方  
 ・会場に駐車場有り

◆電車の方  
 ・東武東上線「森林公園駅」下車・北口駅から会場まで、約2キロありますので、以下の方法で下さい。  
 ①バス「森林公園南口行」など利用(南口から徒歩5分)  
 ②貸し自転車、または徒歩。

**【主催】** 市野川シンポジウム実行委員会  
 市野川改修促進協議会、園場整備準備委員会、月輪・環境を守る会、美しい町つくる会、比企の川づくり協議会、新河岸川水系水環境連絡会

**【共催】** 東松山ロータリークラブ、東松山むさしロータリークラブ

**【後援】** 国土交通省関東整備局荒川上流河川事務所、埼玉県、滑川町、滑川町議会

問合せ先：市野川シンポジウム実行委員会事務局 TEL 0493-35-2714(土日、千葉)

このシンポジウムは、サイサン環境保全基金の助成を受けて開催します。

**市野川の原風景**

園場整備準備委員会 副会長 上野 広  
 子どもの頃、夏は泳いで、春と秋は釣りで毎日魚を捕っていた。魚は家族の貴重な蛋白源だった。今の50才代以上の大人は皆、市野川で遊んで育った。



市野川改修促進協議会 会長 内田 雄三  
 昔は大雨が降るたびに洪水が起きた。寝ている時、水が布団まで来て目が覚めたこともあった。住民が結束し市野川改修促進協議会をつくった。両家橋までの改修が終わったことで洪水はあまり起きなくなった。



今の市野川 川くだりレポート  
 新河岸水系水環境連絡会 小林 一巳  
 昔は子どもが、今は私たち大人が川で遊んでいる。緑に囲まれた美しい川辺の風景。川辺には動物の足跡がいっぱい。とても素晴らしい川だ。



**市野川河川整備計画**

東松山県土整備事務所 治水砂防部部長 神谷 彰  
 平成7年、県は検討委員会を設け、ここの蛇行河川を保全する治水計画を策定した。今回、市民団体から環境配慮が不十分との指摘を受け、計画を見直した。



**市野川多自然川づくり学習会**

**市野川の価値とワイズユースに向けて**

埼玉県生態系保護協会 事務局長 堂本 泰章

- 蛇行河川は貴重な社会資本。
- これを活かした街づくりや土地利用が必要だ。



**暮らしの中を流れる川づくりに向けて**

株式会社吉村伸一流域計画室 代表 吉村 伸一

- いい川をつくる基本は川幅を広げ、河川空間を街に広げていくこと。川幅を広げると川の自然の営みで川の環境が多様化する。
- 横浜の和泉川では、川幅を広げたところを水辺拠点、都市の水辺空間として整備し、治水と環境、双方の機能を高めている。



**生き物豊かで魚のふえる川づくりに向けて**

(独) 土木研究所自然共生センター長 萱場 祐一

- 市野川の蛇行の度合いは、釧路川に匹敵する関東有数の蛇行河川。
- 蛇行は、下流の洪水を減らす効果がある。



**公開討論会**

**空石積護岸の是非**

- 空石積護岸の隙間にはマムシが住む。隙間を埋めてほしい。
- いや、マムシも自然の生き物。排除するのではなく、注意することで共存を目指すべき。
- 自然の中には危険がある。子ども達は危険から身を守る力を身につけることが、子どもの生きる力になる。
- 注意看板設置など色々、工夫はいると思うが……

**河川整備計画**

- 「どういう計画だか分からない。」  
 「これから工事するところは、このまま残せないか。」……
- 色々な意見がでた。
  - 意見と意見がぶつかった。議論はつきない……
  - 目の前を流れている川が、『釧路川に匹敵する関東有数の蛇行河川』という事を知って、住民がビックリした。

**島谷先生が言った。**

「これまでは計画の進め方、話し合いの場の仕組み、意思決定の仕組みがあいまいで、不明確だ。子どもの意見をどうやって反映するか。人は人の意見を聞いて変わる。県には仕組みをつくってもらいたい。」



「とても素晴らしい川だ。住民の皆さんの熱意にもビックリした。きっと何か素晴らしいことができる。日本一の川づくりを目指してほしい。」

**「アンビシャス！」**

島谷先生から、激励された。

住民みんなが参加した川づくりが、スタート台に立った！